

令和七年度

岡山白陵高等学校入学試験問題

国

語

受験
番号

注
意

- 一、時間は六〇分で一〇〇点満点です。
- 二、問題用紙と解答用紙の両方に受験番号を記入しなさい。
- 三、開始の合図があつたら、まず問題が一ページから二三ページまで順になっているかどうかを確かめなさい。
- 四、解答は解答用紙の決められたところに書きなさい。
- 五、字数制限のあるものについては、句読点も一字に数えます。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合上、本文を一部省略している。

以下で問題にしてみたいのは、「遊び≡プレイ」の喪失である。人類学者のD・グレーバーはこれに関して興味深いことを示唆していた。

私たちは「遊び≡プレイ」を怖^{おそ}れているのだ、と。

どういうことか。遊ぶことが嫌いな人などどこにいますか。重要なのは、グレーバーがこの「プレイ(play)」に對置して考えているもののほうであり、それが「ゲーム(game)」だ。私たちはプレイを怖れ、ゲームを愛する。プレイとゲーム、一見どちらも同じことのように思える。従来の「遊び」に関する哲学的考察でも、この二つが明確に区別されることはまれだった。

最近よく聞かれる「ゲーミフィケーション (gamification) ≡ ゲーム化」とは、ゲームプレイの興奮や没入の体験を、ゲーム以外の領域に応用することで、本来ゲームとは関係のないシステムやサービス等々の理解や活動を促進することだ。たとえば英単語を、シューティング・ゲームのように学ぶアプリなどを思い浮かべればよい。

しかし、こうした個別領域へのゲーミフィケーションに先立って、すでに社会がゲーム化されていると考えることは当然できる。高等教育に進むための選別は、日本でも六〇年代以降厳しくなっていたが、受験戦争という言葉も流行したように、そもそも教育メソッドがゲーム仕様のようにも見えてくる。

中間テストは中ボス、期末テストはラスボスであり、どんなスコアを獲得するかによってS判定やA判定等の成果が決まる。^① 具体的な教育内容やその意義よりも、そのステージをクリアできるかどうかが重要になる（人生はゲームである）。

最近の若い世代の言葉に即していえば、たとえば「リセットする」や「無理ゲー」、「親ガチャ」、「レベチ」、「チート」、「上位（下位）互換」等々、こうした言葉の数々は、ゲーム関連用語でありながら、それらを^aテンヨウして社

会状況や人間関係を表すものとして用いられている。しかもそのように社会状況や人間関係をゲーム用語に置き換えることで、耐え難い不合理や不平等、不正に対する人々の溜飲を下げる効果さえある。

社会そのものがゲーム化されている、あるいはゲームに近いものとして社会を認識することが常態化している。気がつけば私たちは、PC、タブレット、スマートフォンといったいくつものデジタル機器を身の回りに所持し、それらによっていつでもゲーム世界にコネクトできる。電車のなかでも、講義中でも、テレビを見ながらでもスマホでゲームをする人たちが無数にいる。他人のゲームプレイの配信を視聴する人も増えている。さらにデジタルゲームの黎明期、八〇年代に子どもだった人たちは今や四〇代、五〇代になる。彼らのなかにもゲームに熱中した経験は蓄積されている。これだけのゲーム熱があるのだから、そこでの経験が現実反映されていても全くおかしくはない。

どうしてこんなに人は、ゲームを愛するのか。社会そのものがゲーム化されたものとして認識されているとすれば、単にゲームから降りればよいという批判的**⑥**ゲンセツ**⑦**だけでは絶対に済まない問題がここにある。人々は自ら好んでゲームに参入していくのだから、むしろそこにある人間の固有性をこそ見つけなければならぬ。

グレーバーは、人々がゲームに夢中になる理由は、私たちの日常があまりにもあいまいな規則にあふれているからだという。それは暗黙の見えないルールといってもよく、そこにこそ恣意的な不平等や不正が**⑧**マギレ**⑨**込む。

誰かと会話をするさい、何をどこまでいいいいのか、いわないほうがいいのか、あるいは、ある場所や会合で、どのようにふるまうのが正しいのか、どのような行為は慎むべきなのか等々、ドレスコードのようにはどこにも明示されていない。

とりわけ新しいコミュニティや他者と接する場面では、空気を読みながら、その人や場の規則をそのつど探り出さねばならない。これはいつでも骨の折れる作業だ。しかし同時にそのプロセスにこそ新しい世界や他者との「出会い」があるともいえる。出会いとは本来、予測できない偶然性の戯れ／遊びとともにしか生じない（ただし「エンカウント」出会い」もすでにゲーム化されつつあるが……）。こうした体験が、生の充実にとって重要だと指摘されることも多い。

しかし、である。最近よく思うのだが、たとえばセクシュアリティやフェミニズムの知識を自分なりに蓄積していたりすると、初対面の人たちが、どのような性規範やジェンダーロールを信条として生きているのかが分からないこ

とが私にとってストレスとなるが増えてきた。

たとえばフェミニズムやLGBTといった言葉をふと口に出したとき、すんなりそのことについてのポジティブな話ができる人もいれば、その言葉を聞くだけで表情がみるみる④ケワしくなり、露骨に嫌悪感を表出したりする人もいる。「ああ、この話は地雷だったか……」と毎回げんなりしながら、対話の糸口をどう回復するかに苦労したりもする。

意見を異にする他者との対話が大切なのはよく分かる。それによって初めて見えてくる現実があるのも確かである。にもかかわらず、明白に性差別的な思考をもっていたり、そのことに無自覚なままの人の話を聞くことが、なかなかしんどくなってしまう、というのが本音でもある。実際にそうした会話の後は、その日一日、自分が傷つけられたかのように消耗することも多い。

だからできれば、たとえばその会話相手の特性として、この人は「思考はリベラルだが、性規範的にはやや保守的であり、夫婦別姓にも反対」といったステイタス説明や、その人が生きる規則があらかじめ情報として与えられたりするととても助かる、と素直に思う。②攻略法が見えてくるといい。そして実は、ここにこそ「ゲームの誘惑」がある。

なぜならゲームの世界では、何が許されていて、何が許されていないのが規則として明示されているだけでなく、アーキテクチャがプレイヤーの行動選択の範囲をあらかじめ制限してくれているからだ。だからこそ予測可能性の枠内で勝敗に集中できるし、自分を傷つけることのないストーリー展開を楽しむこともできる。もし失敗すればリセットすればいい。そこにあるのは「X」が一掃された世界」、つまり規則によって支配され、理想化された世界である。本来、規則でがんじがらめになることほど嫌なことはない。にもかかわらず、私たちはみずから進んでゲームに身を任せる。ゲームの世界は、ほぼ規則に支配された場所なのに、である。グレーバーが「ゲームとは一種の規則のユートピアなのである」と述べているのは、私たちはゲームの規則に自発的に従属しながら、そこから快樂をえることを好むからである。

またグレーバーはこのゲームへの偏愛を、世界中で蔓延する「官僚制（ビュロクラシー）」の全面化の問題とつなげて考えている。官僚という語にまといつく堅苦しく、非人格的なイメージは誰も好ましいとは思わないはずだ。しか

し官僚組織ほど、規則が重視される場所もない。法律、法令、法規、条文、内規といった文書主義が徹底されることで、できることの範囲が明確に規則化された官僚組織は、プログラミングで動く自律AIのようにふるまう。国会答弁での官僚の受け答えを見ていつも感じるのは、そのような自動応答マシンであろう。これほどゲーム化された組織もないことが分かる。

このとき私たちにはアンビヴァレントな感情が芽生えるはずだ。ゲームは好きだが、官僚組織は嫌いだと。それは正しい反応である。しかしそのとき私たちは、おそらく官僚組織に（無下に）扱われる側の一個人としての立ち位置にいる。ではその逆に、あなたがたとえば公的機関のクレーム窓口のような場所で働く組織側の人間であった場合、それでもあなたは顧客や市民に対して、自分が嫌がる官僚的な対応を取らないでいられる自信があるだろうか。

多くの場合、窓口対応などをしていっていると、相談数の多さにもよるが、一律に無機質な対応になっていく。というのも一人一人にパーソナルな対応を行っていると、時間がかかって効率性は下がり、余計なB言質を取られるリスクも高くなるし、個人的便宜を図っていると疑念をもたれたりもするからだ。

この辺りの実践感覚は、私はあまり経験がないためとても不思議なのだが、たとえば大学に属していたりすると、事務の職員の人たちと仲良くなることもある。私にとってはとても気さくなある人の、学生からの評判が極めて悪いといったことが起こる。学生がいうには、^③私が見たことも聞いたこともないような冷たい対応と発言をその人がするというのが、^③

このような官僚化の弊害は、大学だけではなく、コンビニのバイトでも、電話応答の受付でも起こっている。実はこのとき人は、官僚制という組織のゲームと規則に魅了され、取り込まれてもいる。規則を遵守した対応をしているかぎり、弱みに付け込まれることもない。それは組織を守ること以上に、自分の身を守るためにもなるからだ。ゲームは私たちが傷つかなかったためのユートピアなのである。

それに対してプレイとはまさに、この規則化された世界から排除されると同時に、ゲームの外でこそ本領を発揮するものだ。それは規則を変形し、冷笑し、破壊する力をもっている。傷つくことに敏感になっている私たちは、このプレイを怖れてゲームの誘惑に身を委ねるのである。

（稲垣論 ^{いながきさとし}『くぐり抜け』の哲学）による。文章の一部を省略した）

- (注1) 教育メソッド——教育方法。
- (注2) 黎明期——ある事が始まろうとする時期。
- (注3) 恣意的——気ままで自分勝手なようす。
- (注4) ドレスコード——服装規定。場や集団などで定められた服装の決まり。
- (注5) フェミニズム——女性の権利の拡張などを求める考え方。
- (注6) ジェンダーロール——性別に基づく社会的な役割や行動の仕方。
- (注7) リベラル——社会的な規律や慣習などにとらわれず自由な考えを持つこと。
- (注8) アーキテクチャ——(ゲームの) 基本設計。
- (注9) アンビヴァレント——同じ事柄について同時に正反対な感情を持つようす。

問 1 〓 線部①・②のカタカナを漢字に直せ。

問 2 〓 線部 A・B の本文中における意味として最も適当なものを次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

A 「溜飲を下げる」

- ア 抵抗を断念させる
イ 忍耐力を強化する
ウ 問題意識を喚起する
エ 不平や不満を解消する
オ 怒りや悲しみを増幅させる

B 「言質を取られる」

- ア 用いた言葉を陰で批判される
イ 用いた言葉を適当に解釈される
ウ 用いた言葉をのちに否定される
エ 用いた言葉を誤りと判断される
オ 用いた言葉をあとで証拠にされる

問3

――線部①「具体的な教育内容やその意義よりも、そのステージをクリアできるかどうかが重要になる」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

ア 教育が、優秀な成績を得るためのものというより、豊かな人生を切りひらくために思考力や想像力を養うためのものとして認識されるようになっていくということ。

イ 教育内容を検討するより、教育方法を工夫してゲームのような方法にするほうが、子どもの興味を引き、教育効果が上がると認識されるようになっていくということ。

ウ 教育が、学びや成長のためのものというより、ゲームのように成績や合格判定といった目に見える成果を達成するためのシステムとして認識されるようになっていくということ。

エ 教育が、学問や技能などを身につける場というより、ゲームのように興奮や没入の体験を味わうためのサービスを受ける場として認識されるようになっていくということ。

オ 教育内容や方法の工夫より、偏差値や合格判定などの数値化されたわかりやすい結果を重視するほうが子どもの学習意欲を高めると認識されるようになっていくということ。

問4

――線部②「攻、略、法、が、見、え、て、く、る」とあるが、どういうことか。これについて説明した次の文の□にあてはまる言葉を、本文中から二十五字で抜き出して答えよ。

会話相手に対して、□ということが明らかになり、会話を円滑に進める方法がわかっていくということ。

問5 本文中の X にあてはまる言葉として、最も適当なものを次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

- ア あたたかさ イ おもしろさ ウ 単純さ エ あいまいさ オ 堅苦しさ

問6 線部③「私が見たことも聞いたこともないような冷たい対応と発言をその人がする」とあるが、「その人」

がこのような「対応と発言」をする理由について、筆者はどのように考えているか。最も適当なものを次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

ア 官僚的な組織を守るよりも、自分の身を守るほうが重要だと考えるようになってしまっているから。
イ 規則に従って自分の行動を制限することが、結果として組織と自己の防衛につながるから。
ウ 官僚的な組織では、上司の命令や指示に合わせて自分の行動を形式化するようになるから。
エ 組織の中で細かい規則に制限されて仕事をしていると、おのずと冷淡な性格に変化するから。
オ 効率と成果だけが重視されるため、誠実な対応をしようという意欲は次第に失われるから。

問7 線部「そこにある人間の固有性」とあるが、人間はどのような性質を持つ存在であると筆者は考えているか。それについて説明した次の文の にあてはまる言葉を、四十字以内で考えて答えよ。

人間は、自由に予測不可能な世界を恐れ、 性質を持つ存在である。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

鮎職人のイサムは、自分の店『立山』の開店祝いに人間国宝の陶芸家大室古堂から古備前の器を貰った。その時、古備前を届けてくれた古堂の息子桃治は、それ以来、店を畳屋にしてくれ、客の中で唯一イサムが相談事をもちかける人物であった。イサムは桃治の予約のある日には、古備前を棚に飾ることにしていた。桃治の来店があった、ある夜の閉店後、若い職人の悠が棚の古備前をうっかり落として壊してしまう。イサムは、自分が小学校の時に校長室の花瓶を割った事件を思い出す。

事件の翌日。××第一小学校。

母と少年は学校に行くとまず教頭と担任教師のところに呼ばれた。

教頭は母に卒業式の写真を見せ、そこに写っている花壺を指し示し、この作者が、郷土出身の陶芸家であると告げ、花壺がいかに高価なものをかを説明した。

① 母は机に頭をすりつけるようにして懇願した。二人の教師は何も返答せず、ともかく校長に謝って貰うのが先で、ほどなく校長が出張先から戻るはずだから待つように、と言った。少年は母と二人で校長室に入った。すぐに校長があらわれた。少年は校長の顔を見た。

以前、少年は校長と話をすることがあった。

それは一年前の秋のことで校内にある柿の木になった柿の実を取ろうと少年が石を投げていた時だった。

「こら何をしとる？」

振りむくと校長が立っていた。

少年は黙ってうつむいた。

校長は柿の木を見上げ、

「あの実を取りたいのかね。そうか少し待ってなさい」

そう言つて校長は立ち去り、やがて長い竿さおを手に戻ってきた。

まだ実が固かったのか柿はなかなか落ちなかった。ようやくひとつの実が地面に落ちた。校長はそれを拾い上げ、上着の端で汚れを取つて、

「渋柿のような気がするが……」

と言つて実にかぶりついた。そうして顔をくしゃくしゃにして少年に差し出した。少年もその実を食べてみたがおそろしく渋味があつた。

「大失敗だったね」

校長が笑つた。

少年は柿の実をポケットに入れ、ありがとうございまずと言つて駆け出した。その校長が大切にしていた壺をこわしてしまい、済まないことをしたと思つた。

校長は少年の顔を見て笑つた。

少年は笑い返せなかった。校長の姿を見ると、母は床に土下座をし両手をついて言つた。

「この度はこの子がとんでもないことをしてしもて申し訳ありませんでした。どんだけ月日がかかっても、わしが必要の代金をお返ししますから、どうぞ堪忍（堪）してくたはれ。どうぞこの子を学校に置いてやつてくたはれ。頼みます（頼）ちや」

少年も床に手をついて頭を下げた。

校長は床にしゃがんで額をこすりつけるようにしていた母の肩を抱き、やさしい声で言つた。

「お母さん、そんなふうにせんで下さい。この学校には子供がこわして困るようなものは何ひとつ置いてありません。ましてや値段がついている物はひとつもありません。さあ顔を上げてください。こんなことでわざわざ学校にお見え頂くことはありません」

少年は校長の顔を見た。

校長は少年の顔を見ると、あの柿の木の下で会った時と同じように、顔をくしゃくしゃにして笑った。
② 少年の目から大粒の涙があふれ出した。

五反田駅ごたんだの階段を上ると、四角い空が春霞はるがすみに青白くひろがっていた。

浜町の家を出る時に着込んでいたコートはいらぬようである。春休みになったせいかわち合わせの若い男女が笑いながらたむろしていた。高校生なのか男の子が仲間と大声で騒いでいる。

——悠と同じ歳としぐらいだろうか……。

そう考えると悠もこの一年でずいぶん成長したのかもしれない……。

「あの子、この一年でずいぶんと身体が大きくなってるのね。一年前に買ったシャツが窮屈きうくつになっていたわ」

昨晚（注3）、ミサエが言っていた。

昨日の昼間、ミサエは悠を連れてデパートに行ったらしい。帰りに資生堂（注4）で食事をした時、悠がカレーライスをお替わりしたと笑っていた。

桃治の屋敷にむかう坂道が見えた。

桃治のおだやかな顔が浮かんだ。

古備前がこわれた話を、その夜の数日後、桃治に電話で報しらせた。

桃治は電話のむこうでしばらく沈黙していた。

「……そう、それは大変だったね。でも物はこわれるものだからね」

桃治は A 素すつ気きなく言った。

古備前はこなごなになってはいなかった。三分の一が割れて飛び散っていた。あの時は動転してそう見えたのだろう。

「それで修理に出してみたいのですが、私はそっちの方に疎うとうございまして、桃治さんに教えていただきたいのですが」

「そうなのかい。けどあれは贋作(注5) がんさくだよ」

「えっ？」

「だから贋作なんだって。おやじは贋作収集の名人だったからね」

「……そうなんですか。けれど古堂先生に頂いたものですから、修繕してどうにかなるものなら手元に残したいと思ひまして」

「わかりました。ではしかるべきところを探して連絡しましょう」

電話を切ってからイサムは B 狐(きつね)につままれたような気分になった。

そう言えば器を届けた桃治も、その価値を何ひとつ口にできなかった。客が勝手に値踏みをしただけである。③
イサムは自分の迂闊(うかつ)さに思わず苦笑いをした。

修繕屋の方から店にやってきて器を持ち帰った。一ヶ月かかって修繕は終わったが、代金は桃治の方から頂戴(ちやうだい)していると言つて金を受け取ろうとしなかった。

その礼もあつてイサムは今日、大室邸に挨拶(あいさつ)に出かけた。

屋敷が見えた。門の前に人影があつた。イサムに手を振っている。桃治と夫人である。イサムは立ちどまつて一礼した。

イサムは古備前の粗相(そそう)を詫(わ)び、修繕の代金の支払いを申し出たが、桃治は笑うだけで相手にしてくれなかった。

彼は修繕を終えた器の写真を撮つておいたので、それを桃治に見せた。茶を運んできた夫人が興味あり気にその写真を覗(のぞ)いていた。

「いや上手いこと修繕をするんですね。驚きました」

「そうだね、骨董(こっとう)の修繕は日本の職人が世界でトップらしいからね。それでこれは親方がこわしたのかね」

いや、それが、と言いかけて ④ イサムは言葉を読み込み、頭を掻(か)きながら言った。

「私(注6) わかいしと若衆が二人で落としてしまいました」

それを聞いて桃治と夫人が顔を見合わせた。

「それはよございました。小僧さんがこわしたのでは大変でしたからね。『立山』さんの器は作造さん譲り（注）でどれもいいものばかりですものね」

「いや、そんなことはありません。うちの店にあるものでお客さまと店の者がこわして困るものは何ひとつありませんから……」

イサムの言葉に二人が感心したようにうなずいた。

「いいところがけですね。私たちも見習わなくてはいいけないわね、あなた」
夫人が桃治に言った。

桃治は笑って頭を掻いた。夫人が口元をおさえて笑っていた。

イサムはいとまを告げて、最後に今年の藪入り（注）に若衆にスーツを買ってやりたいのだが、それを桃治に見立てて貰えないかと申し出た。桃治は快諾してくれた。

門前まで送って貰い、イサムは何度か二人を振り返り、坂道を下った。

交差点で信号が赤になり、イサムはぼんやりと立っていた。上空で声がして見上げると、一羽の鳶（とび）が旋回していた。鳶から目を離すと春霞みにつつまれた東京の街が見渡せた。

——いいところがけですね。

夫人の言葉と笑顔がよみがえった。

彼女に店の器を誉められたことも嬉しかった。店でもほとんど話をしない夫人が今日はよく話を下さったと思った。

その時、修繕の写真を興味あり気に覗いていた夫人の目が思い出された。

「それはよございました。小僧さんがこわしたのでは大変でしたからね」

耳の底で夫人の声がした。

——大変でしたからね……。

⑤ 春の風が一瞬、イサムの顔を叩いた気がした。

「ひよっとしてあの古備前は……」

イサムはそう口にしてから目の玉を大きく開いた。

(伊集院静『古備前』による)

(注1) うてくたはれ——富山の方言で、「う(し)てください」の意。

(注2) うちや——富山の方言で、「うよ」の意。

(注3) ミサエ——イサムの妻で、夫とともに『立山』を切り盛りしている。

(注4) 資生堂——東京・銀座にある高級な洋食・喫茶店「資生堂パーラー」。

(注5) 贋作——本物を模倣して作られた偽物で、本物の名を騙^{かた}って流通する美術工芸品のこと。

(注6) 若衆——修行中の若い職人の呼び方の一つ。後の「小僧さん」も同じ。

(注7) 作造——イサムの親方で、今は故人。イサムは作造の勧めで独立し、作造の店は跡を継いだ子が潰^{つぶ}してしまった。

(注8) 藪入り——正月及び盆の十六日に、奉公人が暇を貰って親元に帰ること。宿下がりとも言う。

問 1

~~~~~線部 A・B の本文中における意味として最も適当なものを次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

A 「素っ気なく」

- ア 嫌味<sup>いやみ</sup>に感じられる口調で  
イ 平静を装うような口調で  
ウ わざとらしい口調で  
エ 返事に困り閉口した様子で  
オ 関心のなさそうな様子で

B 「狐につままれたような気分」

- ア 意外な成り行きに訳の分からない気分  
イ 小馬鹿にされたようで腹立たしい気分  
ウ 信頼していた人に裏切られた辛い気分  
エ 心配事が無くなって晴れ晴れしい気分  
オ 滅入<sup>めいり</sup>った、気持ちのやり場もない気分

問 2

——線部①「母は机に頭をすりつけるようにして懇願した」とあるが、母はどのようなことを「懇願」したのか。三十五字以内で説明せよ。

問3

――線部②までの「少年」時代の「イサム」のエピソードの中で、「校長」はどのような人物として描かれているか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

ア 人としてすべきこととしてはいけないことを<sup>わきま</sup>弁え、率先して<sup>はん</sup>範を垂<sup>た</sup>れようとする厳格な人物。  
イ どうすればより効果が上がるかを常に考え、その実現のために行動しようとする打算的な人物。  
ウ 子供と行動を共にしようとするうちに、我を忘れて子供と一緒に失敗してしまう無邪気な人物。  
エ 子供のしたいことを尊重し、失敗しても非を<sup>とが</sup>咎めることなく受け容<sup>い</sup>れようとする情愛のある人物。  
オ 人間の尊厳を重んじて、子供の自尊心が傷つくことのないように配慮しようとする理知的な人物。

問4

――線部③「イサムは自分の迂闊さに思わず苦笑いをした」とあるが、「イサム」はどのようなことを「迂闊」と思ったのか。五十字以内で説明せよ。

問5

――線部④「イサムは言葉を飲み込み」とあるが、「イサム」が「飲み込」んだのはどのような言葉だと考えられるか。簡潔に答えよ。

——線部⑤「春の風が……目の玉を大きく開いた」とあるが、このときの「イサム」の内面はどのようなものか。それを説明した次のア～カの中から適当なものを二つ選び、記号で答えよ。

ア 古備前の器は偽物ではあるが、見事な修理が施されたことにより、本物以上の価値を持つようになったらしいと気づいている。

イ 古備前の器は本物で、修理代が高額になるためイサムには払えないと桃治に見くびられていたに違いないと確信を得ている。

ウ 古備前の器はやはり本物であり、桃治は贋作がんさくだと偽ってイサムを寛大に許し善処ぜんしよしてくれていたのではないかと思いついてる。

エ 古備前が本物か否かに関わらず普段と態度を変えない桃治と異なり、それに一喜一憂する自分の愚かさを自覚して呆然としてる。

オ 古備前を偽物だと偽る桃治の配慮に気づかず、その夫妻に自分の心がけを褒められて喜んだ自分の浅はかさにはっと気づいている。

カ 古備前が本物であることを隠す桃治の策略を見逃し、夫人に店の道具を褒められて心を許した自分の鈍感さを痛感し絶望している。

問7 この文章についての説明として最も適当なものを次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

ア この文章では、会話表現でも「」がついていないものがあり、それがイサムの心に深く刻まれた言葉であることを示している。

イ この文章では、花壺が象徴する「校長」の心持ちが、古備前が象徴する「イサム・桃治」の温かい思いやりと重ねられている。

ウ ——— 線部②の後の一行分の空白で、視点を校長からイサムへと変えることによって、登場人物の心情の変化を効果的に表している。

エ 文末表現に「た」が多用されるのは、イサム以外の人物を客観的に描写して、イサムの抱える孤独感を暗示するためである。

オ 花壺と古備前が割れたそれぞれの事件のなりゆきが丹念に描かれているのは、二度と修復できない心の傷を表現するためである。

### 三

次の【資料1】・【資料2】と、この二つの資料についての話し合いのようすを読んで、後の問いに答えよ。

#### 【資料1】『猿源氏草子』

和泉式部、鰯と申す魚を食ひ給ふところへ、保昌来りければ、和泉式部、恥づかしく思ひて、あわたたしく鰯を隠し給へば、保昌見て、鰯とは思ひ寄らず、道命法師よりの文を隠し給ふと心得て、「何を深く隠させ給ふぞや、心もとなし」とて、あながちに問ひければ、

日の本に祝はれ給ふいはしみづ参らぬ人はあらじと思ふ  
とながめ給へば、保昌聞き給ひて、色を直して言ひけるは、「肌を温め、ことに女の顔色を増す薬魚なれば、用ひ給ひしを咎めしことよ」とて、それよりして、なほなほ浅からず契りしとなり。

#### 【資料2】『三省録』

むかし、紫式部、あるとき夫宣孝他出のとき、鰯をあぶり食ひたるを、宣孝かへりみて、いやしき魚を食ひたまふと笑ひければ、

日の本に祝はれ給ふいはしみづ参らぬ人はあらじと思ふ  
と詠み侍りしとぞ。

教師 「和泉式部」は恋多き女性として知られる、平安時代の歌人です。そして、「保昌」は夫の藤原保昌です。また、「道命法師」は和歌に優れた僧で、保昌は、道命法師と妻との関係を疑っています。さて、【資料1】の内容について話し合しましょう。

生徒 A 和泉式部が鰯を食べているところへ保昌が来て、――線部①「恥づかしく思ひて」とあるけど、なぜそう思ったのかなあ。

生徒 B 鰯については、【資料2】では、――線部②「いやしき魚」と書いてあるけど。

生徒 A それってつまり、鰯は I の低い人が食べるものと考えられていたということなのかな。だから和泉式部は恥ずかしがって隠したのか。

教師 そうですね。そして保昌は、II、ということですよ。

生徒 B なるほどね。そして和泉式部は返答として「日の本に祝はれ給ふいはしみづ参らぬ人はあらじとぞ思ふ」の和歌を詠んでいるんだろうけど、良く意味がわからないな。

教師 では、この和歌の意味を考えてみましょう。この和歌の「いはしみづ」は、石清水八幡宮という有名な神社のことで、「日本で大切に祭られている石清水八幡宮に参詣しない人はいないだろうと思う」というような意味ですよ。

生徒 A 急に石清水八幡宮のことを和歌に詠む理由は何なのかな。

教師 そこがポイントです。この和歌にはある技法が使われています。ひらがなの部分に注目して、その技法が使われている部分を探してください。

生徒 B 分かった。III の部分だ。なるほど、その部分には IV の名前と V の名前が掛けられているんですね。

教師 そうです。さらに、「参る」について古語辞典で調べてみましょう。さて、どのような意味がありましたか。ずいぶんたくさんありますね。謙譲語と尊敬語の場合があります。謙譲語だと、「参上する」「参詣する」

生徒 A 「差し上げる」「…し申し上げる」、尊敬語だと、「召し上がる」「なさる」といった意味があります。

生徒 B ということは、技法も踏まえて考えると、和泉式部はこの和歌で、VI ということをやっているんですね。

教師 その通りです。そして、VII、結果的に夫婦仲が深まった、というお話です。

生徒B なるほど。ところで【資料1】と【資料2】はどのような関係なのですか。この二つの話は、和歌は同じなのに登場人物が違いますよね。【資料1】の「保昌」が【資料2】では「宣孝」になっているし、「和泉式部」と「紫式部」も別人ですよ…。

教師 そうです。二人は別人で、宣孝は紫式部の夫です。元の話では和泉式部と保昌夫婦の話だったものが、後に紫式部と宣孝夫婦に入れ替わったと考えられます。では次にその理由を考えてみましょう。「女房言葉」と言って、貴人に仕える女性達の中だけで通じる言葉があつて、それを集めた書物があります。それによると、「いわし」を「むらさき」「おほそ」「きぬかづき」等と呼んだと書いてあります。

生徒A そこから考えると、和泉式部が紫式部に入れ替わった文献があるのは、単に二人が同時代の人で名前が似ていたことによる混同だけが原因ではなくて、VIIIも原因だと考えられそうですね。

教師 そう考えてもいいと思います。いろいろな資料を読み比べてみると、多くのことに気付かれますね。

問1 Iにあてはまる言葉を、漢字二字で考えて答えよ。

問2 IIにあてはまる言葉として最も適当なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

- ア 自分が帰ると隠れようとする妻の様子を見て、自分への愛情が冷めたのではないかと腹立たしく思った  
イ 妻が道命法師からの手紙を隠そうとしているのに気付き、妻があわてるのも仕方ないと切なく思った  
ウ 自分の帰宅に妻があわてる様子から、鰯だけでなく他にも何か隠したのではないかと疑わしく思った  
エ 道命法師からの手紙を妻が急いで隠したのかと気がかりに思つて、何としても確かめたいと思つた  
オ 妻が道命法師からの手紙を隠したとは思ひも寄らず、冗談交じりに何を隠したのか聞こうと思つた

問 3 Ⅲ にあてはまる言葉を、【資料 1】の中から三字で抜き出して答えよ。

問 4 Ⅳ、Ⅴ にあてはまる言葉を、Ⅳ は漢字二字、Ⅴ は漢字一字で、それぞれ答えよ。

問 5 Ⅵ にあてはまる言葉を考えて、答えよ。

問 6 Ⅶ にあてはまる言葉として最も適当なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

ア 和泉式部が即興の和歌によって隠し事を打ち明けたので、保昌は納得はいかないが次第に冷静になり  
イ 和泉式部が当意即妙な和歌で事情を説明したので、保昌は機嫌を直して妻を疑ったのを申し訳なく思い  
ウ 和泉式部が拙い和歌ではあるが夫への愛情を必死に伝えたので、保昌は妻をこの上なくいとしく感じ  
エ 和泉式部が即興で機転の利いた和歌を詠めなかったため、保昌は妻に無理難題を押しつけたのを後悔し  
オ 和泉式部が理知的な和歌で見事にその場を取り繕ったため、保昌は妻の罪をこれ以上とがめようとせず

問  
7

VIII

にあてはまる言葉を考えて、答えよ。

問  
8

平安時代に成立した作品のみを三つ挙げているものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 竹取物語・源氏物語・平家物語
- イ 平家物語・枕草子・徒然草
- ウ 奥の細道・枕草子・徒然草
- エ 源氏物語・平家物語・奥の細道
- オ 竹取物語・源氏物語・枕草子